

## エッセイ 楽しい“虫音楽”の世界 (その14 「虫送り」の音楽)

昆虫芸術研究家

「虫供養」の音楽について以前記したが、「虫送り」の曲もある。害虫の大発生を神の怒りや悪霊の祟りによるものとし、祈祷やお札等で虫封じ（虫除け）が行われていたことはよく知られる。虫送り（虫追い）では村人が松明を持って田圃道を村境まで囃子とともに歩き、川や海に流すなどして虫の害を免れようとしたのである。

虫送りは場所により郷土行事として受け継がれ、多くの観光客が訪れるところもある。しかし行方場所は減っているようで、私の住んでいる市でも暫く前に中止になった。「埼玉のまつり」（昭和57年 国土地理協会発行）は、理由として住民の生活様式や意識の変化、害虫を駆除する農業の発達、農場周辺の人家の増加（多量の麦わらを燃やす行事なので火事を起こす危険）に加え松明を作る麦わらの減少を挙げている。

インターネットでは青森県五所川原市、埼玉県越谷市、三重県鈴鹿市、鳥根県邑南町、香川県小豆島、高知県吾川郡、熊本県天草市等の「虫送り」の様子を動画サイトで観ることができる。小豆島中山千枚田の虫送りは小説「八日目の蟬」の中で重要な役目を果たしたが、同名の映画のロケをきっかけに2011年に復活したそうだ。

虫送りには音曲を伴うものがある。五所川原市の旧市浦村相内で行われる虫送りでの「相内虫送囃子」を五所川原囃子方「連會」会長の山谷祥文氏のご厚意で聴くことができた。この曲は「招霊祭音楽箱」というタイトルのCDに収められ、とても活気あるものだ。これでは虫も逃げ出そう。

熊本県天草市河津町一町田地区の「虫送り」に作られた《一町田 虫追い音頭》もある。20～30年ほど前に地元の大川正敏氏が作詞・作曲した《一町田 虫追い音頭》と、その後2011年虫追い祭り保存会からの依頼で天草市在住の田中明憲氏が歌詞をそのままに新たなメロディを与えた《一町田 新・虫追い音頭》とがある。行事のときに楽しく演奏されるらしい。双方をCDで聴く。原曲は盆踊りにも似合いそうな体が動き出す曲である一方、新曲には今風の旋律で伴奏の異なるレゲエ、ディキシーランド、カントリー等六つのバージョンが収められなかなか凝っている。

1 番の歌詞を記そう。

へ さあさ 今年も  
海を渡って 夏が来た  
ここは天草 一町田

柏田 雄三（かしわだ ゆうぞう）

虫追い祭りの 鉦が鳴る  
田の虫 泣き虫 カンの虫  
みんな追い出し からりと晴れて  
虫追い音頭を 踊りましょ



一町田 虫追い音頭（新曲）のCD  
作詞：大川正敏 作曲：田中明憲

虫送りには松明を燃やしながらか農道を歩くもの、実盛人形や虫に見立てた人形を列に加えるもの、吹き流しを立てて歩くものなどの型がある。一町田の虫送りは赤い色を基調にした吹き流しを何本も立てた立派なものだ。

五所川原市市浦の相内地区で6月に行われる「虫送り」では地区をくまなく練り歩いた蛇形の「虫」が神明宮の松に括りつけられ1年の間害虫や邪神が侵入しないよう村を守る。虫送りが終わった時期だったが同地を訪ねると5mほどの藁製の立派な「虫」があった。同市のマンホールの蓋にこの虫の頭部がデザインされたものがある。

虫送りは時期が限られているうえ交通の便がよくないところも多いが、あちこち訪ねてみたいものである。



五所川原市（相内）の虫送りの「虫」（神明宮）